

災害対策

質問Ⅱ 感震ブレイカーの設置は
答弁Ⅱ 町単独で実施することは考えていない



森本 せつこ 議員

「いの町地震火災対策計画」の中に行政が行う対策として感震ブレイカーの普及が挙げられている。県が定める重点推進地区以外の方からも「住宅が密集しているが補助制度の検討はないか」との声が上がっている。感震ブレイカー設置の広報や補助制度の検討などの進捗状況、これからの方向性は。

池田町長

今の県の補助制度では重点推進地区以外への感震ブレイカーの購入補助は対象となっていないこともあ

り、現時点で町単独で実施することは考えていない。今後においても、町広報誌や自主防災活動を通じて、地震時にはブレイカーを落として避難するなど、通電火災に対する防災意識の啓発活動に努めていく。

避難所の空調は

森本議員

災害時に避難所にもなる公民館や集会所、学校体育館への「冷暖房設備の設置は喫緊の課題」と思われる。伊野体育館と現在改築が進んでいる伊野小学校の体育館の空調設備はどのようになっているか。エアコン整備を要望するが町長の考えは。

池田町長

特に避難所の暑さ、寒さ対策などの環境整備は非常に重要であり取り組んでい

かなければならない課題であると認識している。

現在、伊野体育館や改築中の伊野小学校の体育館など空調設備はつけていない。これに対しては、天井が高くかなりの費用が発生するところで、対策については今後検討していきたい。

子育て支援

ファミリー・サポート・センター

森本議員

町ではファミリーサポートサービスがスタートしている。会員登録数やどのような援助の依頼があるか、問題点はないか。

澁谷ほけん福祉課長

平成30年12月6日現在63人が登録しており、援助の依頼件数は3件。問題点として、援助依頼内容に合う、まかせて会員が少ないため、マッチングに苦慮している。

がん対策の推進

がん教育の重要性
小児がんの早期発見

森本議員

町において「がん教育」の重要性をどのように認識し、実施しているか。また、小児の死亡原因の第1位はがんとなっている。乳幼児健診の医師健診アンケートの「眼」の項目に「白色瞳孔」を追加しては。

山崎教育次長

学校教育における健康教育では、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成することが重要である。町立小中学校の現状として、小6では保健の授業、中3で保健の授業に加えパンフレットの配布を行っている。今後は、専門的な外部講師招へいも検討しながら取り組んでいく。

澁谷ほけん福祉課長

町では、県の「乳幼児健

康診査の手引き」に基づき、乳幼児健康診査を実施している。問診票などで網膜芽細胞腫の症状を含む目の異常に関する質問をした上で、小児科医の診察で、ペンライトによる追視や対抗反射、瞳が白く見えることや光って見えることがないかなどの項目を確認し、健康診査票の医師診察欄に所見を記入しているので、新たな項目は考えていない。しかし、網膜芽細胞腫は重症の目の疾患であるので観察項目で異常を認める場合には、精密検査を進めるなど、今後も早期発見に努めていく。

